



大館桂桜高家庭クラブ



大館桂桜高家庭クラブの役員

大館桂桜高校（大館市）家庭クラブには、普通・生活学科の1年生と、生物学科の1・3年生が所属している。県内各校で2名の高校家庭クラブリーダー（加齢18人の役員を主とし、各校の地域活動の充実・向上を目指して毎年研究発表会）に選出される。

「エネルギーの無駄をなくす」と、本年度は2年間のテーマを掲げた。標榜の電気会社の協力あり

快適、豊かな生活へ工夫

「エネルギーの無駄をなくす」と、本年度は2年間のテーマを掲げた。標榜の電気会社の協力あり

上増えたといい、学校の事務担当者からの「こうした状況を開いた田畑者か(2年)は「2に増えたい」と願った。無駄な電機使用を減らさなければ感じた」と話す。

「電機を減らすための取り組みの一つとして始めたのが、首元冷やすネックラー作り。電機を使わずに冷やすネックラーとして、家庭の廃棄物減らす布を使うことでの減量にもつながる目的がある。

8月下旬、放課後の放課室ではタラシの1人が、授業で身に付けたミシンの技術を使って、車に一本一本縫って、前と結ぶように、1本の長さをおよぼ、幅を調節し、首元冷やすネックラーは、保冷剤が入るポケットを付けた。試着した山田揚羽さん(2年)は、「とても涼しい。たまたまに知りませんでした。これを作った本数は約1200本。体験に来て訪れた学生や

校内の体育行事で希望者に貸し出したことも、反響が良かったという。教職員に取り組みたいという声は、8月校内の教室の室温を比較する実験を始めた。大帯では同日に観劇中上高生の30・8度を記録。厳しい暑さを避けるためのアイデアとして、2年生の生物学科の教室の窓に「シート」を張り、温度変化を記録している。高橋果さん(同)は「日を変えた教室は涼しいと感じた。でもまだ暑い」と話す。

他に、節電を呼びかけるループは、小まめに照明を切らせよう記したスリッパを教室に掲げた。10月の活動や研究の結果は毎年10月開かれる「全県家庭クラブ研究発表会」で発表する予定だ。嶋田果さん(同)は「暑さを力にしようで、大きさを調整のヒントが与えられ、とても実感している。地域の皆さんに発信し、快適で豊かな暮らしを取り戻す、幅広い世代の人たちが取り組んでみたい」と思えることを主を考えた」と話した。

〈山田揚羽さん〉
〈嶋田果さん〉



授業で余った綿布をシンで縫い上げ、ネックラーを作る。家庭クラブのクラブ員らと出来上がったネックラーの百八ひかりをりとして涼しい



室温の変化を調べるためシートを貼り付けるクラブ員



恒例「卒業かまぶく」

家庭クラブは、大館北秋田地域の伝統菓子「かまぶく」の伝統にも取り組む。クラブの前身である大館高家庭クラブの時代から引き継いでいる活動だ。

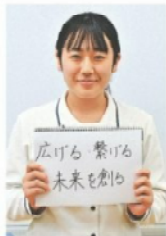
かまぶくは米粉にゆでたジャガイモを混ぜて生地を練り、巻いて蒸したかまぼこ形のお菓子。冠婚葬祭の席などで多く出された。内陸の山間部で魚が手に入りにくかったため、鯛が出したといわれるが、今では家庭で作られる機会が少なくなっている。

家庭クラブでは、卒業式の日に感謝の気持ちを込めて3年生に贈る「卒業かまぶく」を作るのが恒例行事だ。地域の小学生や親子向けにも講習会を開き、技術をつないでいる。

小坂町から通学する池田静奈さん(3年)は、高校入学までかまぶくの



家庭クラブのクラブ員が作った「かまぶく」



◇ 会長から一言 ◇

良い未来創りたい

「前編 葉波さん(3年)」
特に心に残っている活動が、昨年取り組んだタマネギの皮の再利用です。普段は調理実習や家庭で廃棄している皮を煮出して染液を作り、被服製作で出た余り布を染めました。

爽やかな黄色に染まった布で巾着を作って地域のイベントで提供したところ、「色がきれいだ」と声をかけてもらいました。新しい発見をする楽しさ、地域の人たちと関わる喜びを感じた体験でした。

身近な課題を見つけ解決していくためには、自分たちの日々の生活を見つめ直すことが大切だと感じています。私たちの活動を地域に広げ、そこに住む方々と繋(つな)がり、協力して良い未来を創っていきたいです。意見を出しやすい雰囲気も、私たちのクラブの良さです。ぜひ家庭クラブ員とともに活動しましょう。

- ▼ 創設年1970(1年) 前身は統合前の大館高家庭クラブ。
- ▼ クラブ員数106人(1年103人、2年31人、3年32人)
- ▼ 近年の志業100%
- ▼ 22年東北プロテック高校家庭クラブ連携研究発表会(大館市) 22年県高家庭クラブ員体験・研究発表会(盛岡市)